

mori もりもと moto

おかしはなし

Vol.02 はなさかじいさん

「かれきにはなを
さかせましょう！」
“はい”をまくと、うつくしい
はながたくさんさきました。



Picture by SP&P
Picture Book



morimoto

むかしむかし、あるところに、
おじいさんとおばあさんがすんでいました。
ふたりは、「しろ」といういぬを、
とてもかわいいがっていました。

あるひのこと。

「ここほれわんわん、ここほれわんわん。」

「よしよし、ほつてやろう。」

つちのなかから、おおばんこばんが、
ざくざくとでてきました。

そのようすを、となりのいえからみていた
よくばりじいさんが、

「しろを、わしにかしてくれんかね。」と、
つれていってしまいました。

いやがるしろがないところをほつて
みると、くさいごみがたくさんでてきました。

「このやくただすのいぬめ！」

おこったよくばりじいさんは、しろを
ころしてしまつたのです。

おじいさんとおばあさんは、かなしみかなしみ、
ぼうをたてて、おほかをつくりました。

つぎのひ、おほかへいってみると、ぼうが
ひとばんで、おおきなきになつていたので、

そのき、でうすをつくつて、おもちをつくと
たくさんのたからがでてきました。

となりのよくばりじいさんは、

「わしに、うすをかしてくれや。」と、
むりやりとりあげて、もちをついてみました。

しかしでてくるのは、いしころばかり。
おこつて、うすをたたきわり、

やいて、「はい」にしてみました。

かなしんだおじいさんが、「はい」だけでも
もちかえろうとしたとき、「はい」が

かわりとかかりました。すると、
まんかいのはながさいいたので、

「かれきにはなを
さかせましょう、

かれきにはなを
さかせましょう！」

と、「はい」をまき

つづけると、

うつくしいはなが
たくさんさきました。

どおりかかつたひとびとのごころは、
さくらのほなのような、
やさしいきもちになりましたとき、

おしまい



sora's profile

北海道を拠点として活動する、絵本作家、イラストレーター。イラストによる絵本、それが制作したフェルトぬいぐるみを撮影したピクチャーブック、キャラクター開発などを手掛ける。また、自身の絵本による、子どもたちへの読み聞かせやライブペインティング、絵本作家としての講演や、テレビラジオ・雑誌などへの出演などの活動も展開。



はなさかじいさんの感想

春が近づく、桜とともに思い出す、はなさかじいさんのお話。このお話を読むと、いつも初心に戻るような気持ちになります。おじいさんは、自分の不幸を、人のせいにしたりすることなく、まっすぐに生きていきます。おじいさんの生き方に、「前向きに生きることの大切さ」を感じるのです。春は、出逢いもあれば、別れもあります。桜餅を食べながら、明るい気持ちで、あたたかな春を楽しんでください。しろも、きっとそう願っていることでしょう。



Illustrated by SORA
Picture Book Island




COOPERATION PARTNER
mori moto

morimoto

春の
おかし


おかしずかん

桜餅 さくらもち

塩漬けにした桜の葉っぱで、
ピンクの餅と餡を包んだ、
桜の季節のおかし。 



鶯餅 うぐいすもち

春つぎ鳥と呼ばれるうぐいす
に見立て、餡を求肥で包んで
青大豆のきな粉を 
がサおかし。



粒あん入りの
(よもぎ)

桃まん入りの(桃)



見立てたおかし。
春風に舞う花びらに
花ひな餅 もち

(監修: 農学博士 加藤淳)